Korean Society of Spine Surgery 学術集会参加報告

防衛医科大学校整形外科学講座
JSSR 国際委員会委員
北村和也

波呂理事長ご講演

波呂理事長表彰

全員参加 Gala dinner

2023 年 5 月 24 日から 26 日まで、韓国・ソウルで開催されました Korean Society of Spine Surgery（KSSS）学術集会に参加させていただきました。日本からは波呂浩孝理事長、海渡貴司先生（大阪大学）、長谷川智彦先生・吉田剛先生（浜松医科大学）、大西貴士先生（北海道大学）、JSSR トラベリングフェローとして由留部崇先生（神戸大学）と唐司寿一先生（関東労災病院）、第 51 回 JSSR 学術集会 English Presentation Award (EPA) 受賞者として横田和也先生（九州大学）と私北村が参加いたしました。横田先生と私は EPA 受賞演題を発表させていただきました。

KSSS は主に ortho-spine surgeon で構成される会員数約 1000 名（JSSR 約 4000 名）の学会であり、学術集会には約 300 名（JSSR 約 1000 名）が参加していました。学会規模は JSSR の約 1/3 ということになりますが、参加国は 15 か国以上（韓国、台湾、中国、香港、ミャンマー、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、バングラ ディッシュ、インド、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、日本＋α ）と非常に国際色豊かな学会でした。「外国人も参加している韓国国内学会」ではなく「アジア諸国の脊椎外科医が集う機会（mini APSS [Asian Pacific Spine Society] の様な存在？）」であるように感じました。さらに特筆すべきは、発表と質疑応答がすべて英語でなされていることでした。老若男女を問わず、韓国人同士であっても当たり前のように英語で議論し、若い先生方（日本ではおそらく整形外科専門医取得後、指導医取得前に相当？）も積極的に発言されていました。日本では、日本人同士が慣れない英語で話すことに抵抗や恥じらいの気持ちを感じたり、十分な議論が出来ないので意味がない、と考える人も多いのではないかと思います。しかしながら、KSSS にはそういった雰囲気は一切ありませんでした。例え流暢ではなくとも自分の考えを英語で発信する先輩医師の姿を目の当たりにし、また望めば同じ舞台で自らも英語で発言する機会を得ることができる環境は、若い世代の先生たちにとっての国際学会参加のハードルを強力に押し下げているように思われました。

また、学術的な内容ではありませんが、全員参加の Gala dinner（医療経済や学会規模が違うからこそ成り立つものと思われます）、参加各国メンバーの紹介、各国代表からのスピーチなど、とても hospitality に溢れる学会でありました。また、KSSS が私にご準備下さったホテルの部屋には、“It is our great pleasure and honor to welcome Kazuya Kitamura to KSSS 2023. We wish you a pleasant and memorable stay in Seoul.”と書かれたメッセージカードが置かれており、このようなところからも、海外からの参加者に KSSS を楽しんでほしい、ぜひまた来年も参加してほしい、という気持ちが伝わって来るようでした。

国際化・英語化という意味では KSSS は JSSR の先を行っているように思われます。今後の JSSR のさらなる国際化へ向けては、日本人を含めた各国の参加者が EPA で単発の発表を行う（会場には発表者と共同演者しかいないことも

ある？）だけでなく、多国参加型の debate や case discussion などで参加国全てが集うセッションを作る、若手脊椎外科医のみの英語セッションを作り国際学会参加へのハードルを下げ得る機会を作る、など様々な策が考えられます。KSSS に参加したことで、甚だ僭越ながら、JSSR 学術集会が「外国人も参加する国内学会」または「日本国内で参加できる国際学会」のどちらであることが望ましいかを考えさせられました。この度の貴重な機会を頂戴いたしましたことに、波呂理事長、国際委員会の先生方、JSSR に所属される全ての先生方に厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。